

## 体操伝習所旧蔵書文献目録に関する調査研究 －「和漢書」を中心として－

大熊廣明・篠塚富士夫・村井友樹・佐藤 亮・  
麻生邦義・竹下幸佑・李 燦雨

### Research on the Catalogue of “Japanese and Chinese Books” in the Library of National School of Gymnastics (Taiso-Denshu-Jo)

OHKUMA Hiroaki, SHINOZUKA Fujio, MURAI Yuki, SATO Ryo,  
ASO Kuniyoshi, TAKESHITA Kosuke and LEE Chanwoo

#### Abstract

The purpose of this research was to clarify the tendency of Japanese and Chinese books in the library of national school of gymnastics (Taiso-Denshu-Jo) founded in 1878. Therefore we totaled the number of volumes and titles of them written on the catalogue of the library of the school. The results were as follows.

- 1) The Japanese and Chinese books consisted of 4,945 volumes and 323 titles. In addition, they consisted of 34 fields.
- 2) The number of volumes divided into the fields was as follows. The volumes of “historiography” counted up on 1,265 (25.58%), “physiology” counted up on 680 (13.75%), “physical education” counted up on 422 (8.53%).
- 3) The number of titles divided into the fields was as follows. The titles of “martial arts” counted up on 45 (13.93%), “education” counted up on 31 (9.59%), “series” counted up on 25 (7.73%).
- 4) The translated books consisted of 1,538 volumes (31.10%).
- 5) The books on “physical education”, “physiology” and “anatomy” were occupied mostly in Japanese and Chinese books of the library.
- 6) The books on gymnastics were occupied 80.43% in the books of “physical education”. These were arranged at regular intervals.
- 7) There were a few books on sports and games. These were arranged for the first time in 1885.
- 8) The books on Japanese traditional martial arts had not become necessary.
- 9) Necessity of books on military drill had been increased.

**Key words:** 近代学校体育、伊澤修二、リーランド、坪井玄道、軽体操

#### まえがき

本研究は明治11（1878）年に設立された体操伝習所<sup>注1)</sup>の図書台帳に記載された和漢書の冊数とタイトル数を分野別に集計し、体操伝習

所の蔵書傾向を明らかにしたものである。図書台帳に記載された西洋書に関しては、先に阿部らによって研究がなされ、その成果が公表されている<sup>1)</sup>。本論文はその続編に当たるものであ

る。

体操伝習所の蔵書に関する先行研究に関しては、阿部らの論文で触れているように、大場<sup>2,4)</sup>、木村<sup>5,6)</sup>、大熊<sup>7,8)</sup> および筑波大学体育科学系・筑波大学附属図書館<sup>9)</sup> によるものがある。これらの内容については上記の阿部らの論文で詳述されているので、ここでは簡単に触れる程度に止めたい。大場による研究は、主に教育、体育、医学関係の図書を対象としたものであり、木村の研究も医学関係図書に限定して考察したものである。また、大熊の記述は、主に体操伝習所から発行された『新撰体操書』と『新制体操法』並びに坪井玄道著『戸外遊戯法 一名戸外運動法』を今日の体育・スポーツとの関連で述べたものであり、筑波大学体育科学系・筑波大学附属図書館のものも体操伝習所の図書台帳に基づいて記述したものではなかった。つまり、これまで体操伝習所の蔵書全体を対象にしてその傾向を明らかにした研究はなされたことがなかったのである。それはこれまで大場以外に体操伝習所の図書台帳を手にして研究した者がいなかったことによる。その意味で大場の資料探索の視点と能力は高く評価されるべきであろう。われわれも大場の研究によって図書台帳の存在には気づいていたが、最近まで探すことができなかつたのである。

阿部らの論文でも触れているが、最近になって筑波大学附属図書館の篠塚富士夫氏の尽力により体操伝習所の図書台帳の存在が明らかになった。図書台帳記載の西洋書を対象として先に行われた阿部らによる研究と和漢書を対象として今回行った研究は、いずれも記載された全西洋書、全和漢書を分析したものであり、これら二つの研究によって初めて体操伝習所の蔵書の全貌が明らかになったのである。言うまでもなく、蔵書の傾向は体操伝習所の教育内容を少なからず反映している。したがって、本研究によって得られる知見は、我が国の近代学校体育の基礎がどのように形成されたのかの一端を示すものとなる。

なお、本論文は筑波大学体育・スポーツ史研究室が平成23年度第1学期に実施した日本体育史に関する演習の成果である。

## I. 図書台帳の分析

### 1. 図書台帳について

図書は和漢書と西洋書に分けて記載されており、記載項目は、両者とも年月日、図書名、部数、冊数（巻冊記載、増、減、現在数）、書籍番号、類別、類別簿丁数、及び備考であった。1頁は32行で、和漢書の記載は11頁にわたっている。なお、年月日が記されるようになるのは明治17（1884）年9月からであり、それ以前については類別ごとにまとめて記載されている。このことから、この図書台帳が作成されたのは明治17年9月であったと推定される。なお、最後の記載は明治19年4月15日である。

### 2. 全体の分析

台帳によると体操伝習所所蔵の和漢書は、4,945冊であった。この冊数は、文部省年報に記載されていた冊数と同じである<sup>10)</sup>。

また、台帳には類別が記載されており、それらは、1)「史伝」2)「生理」3)「体育」4)「解剖」5)「数学」6)「武芸」7)「類書」8)「教育」9)「健全」10)「字書」11)「修身」12)「化学」13)「文章」14)「物理」15)「政法」16)「子類」17)「医学」18)「地学」19)「画学」20)「叢書」21)「哲学」22)「博物」23)「経書」24)「語学」25)「歌学」26)「薬剤」27)「工学」28)「職官」29)「鉱学」30)「経済」31)「天文」32)「衛生」33)「統計」34)「音楽」の34項目から構成されていた。

上記項目の中で「史伝」が1,265冊あり、総冊数の25.58%を占めていた。次いで、「生理」が680冊（13.75%）、「体育」が422冊（8.53%）、「解剖」が409冊（8.27%）、「数学」が384冊（7.77%）、「武芸」が275冊（5.56%）であった（表1、図1）。

また、タイトル数（重複した図書を含まず）は323タイトルあった。その中で、「武芸」が45タイトルあり、総タイトル数の13.93%を占めていた。次いで、「教育」が31タイトル（9.59%）、「叢書」が25タイトル（7.73%）、「史伝」が23タイトル（7.12%）、「生理」が20タイトル（6.19%）、「解剖」が17タイトル（5.26%）であった（表2、図2）。

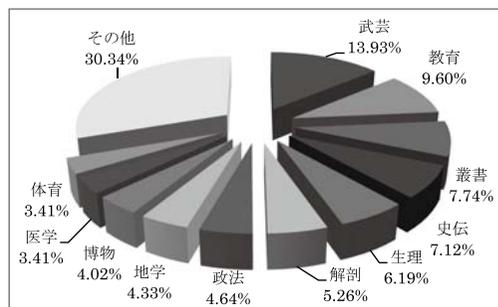
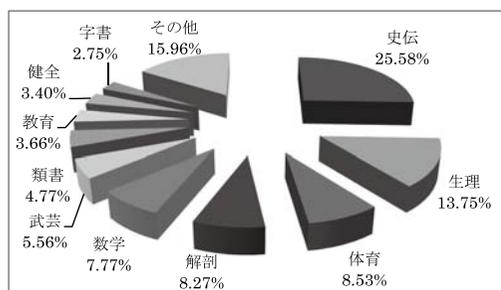


図1 「和漢書」分類項目別冊数割合  
 ※その他 (15.96%) には、「修身」、「化学」、「文章」、「物理」、「政法」、「子類」、「医学」、「地学」、「画学」、「叢書」、「哲学」、「博物」、「経書」、「語学」、「歌学」、「薬剤」、「工学」、「職官」、「鉱学」、「経済」、「天文」、「衛生」、「統計」、「音楽」が含まれている。

図2 「和漢書」分類項目別タイトル数割合  
 ※その他 (30.34%) には、「字書」、「哲学」、「文章」、「化学」、「数学」、「物理」、「子類」、「修身」、「画学」、「薬剤」、「歌学」、「類書」、「工学」、「経書」、「鉱学」、「経済」、「職官」、「統計」、「天文」、「健全」、「語学」、「衛生」、「音楽」が含まれている。

表1 「和漢書」分類項目別冊数

分類名	冊数	%	化学	94	1.90	語学	21	0.43
史伝	1,265	25.58	文章	89	1.80	歌学	12	0.24
生理	680	13.75	物理	66	1.34	薬剤	11	0.22
体育	422	8.53	政法	62	1.25	工学	9	0.18
解剖	409	8.27	子類	56	1.13	職官	8	0.16
数学	384	7.77	医学	51	1.03	鉱学	6	0.12
武芸	275	5.56	地学	44	0.89	経済	5	0.10
類書	236	4.77	画学	42	0.85	天文	2	0.04
教育	181	3.66	叢書	38	0.77	衛生	2	0.04
健全	168	3.40	哲学	26	0.53	統計	1	0.02
字書	136	2.75	博物	25	0.51	音楽	1	0.02
修身	97	1.96	経書	21	0.43	合計	4,945	100.00

表2 「和漢書」分類項目別タイトル数

分類名	タイトル数	%	字書	10	3.09	工学	3	0.93
武芸	45	13.93	哲学	9	2.79	経書	2	0.62
教育	31	9.59	文章	8	2.48	鉱学	2	0.62
叢書	25	7.73	化学	8	2.48	経済	2	0.62
史伝	23	7.12	数学	8	2.48	職官	1	0.31
生理	20	6.19	物理	8	2.48	統計	1	0.31
解剖	17	5.26	子類	7	2.17	天文	1	0.31
政法	15	4.64	修身	6	1.86	健全	1	0.31
地学	14	4.33	画学	5	1.55	語学	1	0.31
博物	13	4.02	薬剤	5	1.55	衛生	1	0.31
医学	11	3.41	歌学	4	1.24	音楽	1	0.31
体育	11	3.41	類書	4	1.24	合計	323	100.00

### 3. 体育・教育書の分析

台帳における「体育」と「教育」の項目の冊数をさらに1)「体操」2)「体育論」3)「スポーツ・遊戯」4)「教育」の4項目に細分化すると、「体操」は485冊、16タイトル、「体育論」は5冊、3タイトル、「スポーツ・遊戯」は32冊、2タイトル、「教育」は81冊、17タイトルに分けることができた。

上記の細分化した4項目を1) 明治17年8月以前、2) 明治17年9月～18年3月、3) 明治18年4月～19年4月に分け、冊数を比較してみた。その結果、「体操」は明治17年8月以前に90冊、明治17年9月～18年3月に294冊、明治18年4月～19年4月に101冊と継続的に図書を納入していた。一方、「体育論」と「教育」は明治17年8月以前に多くの図書を納入しており、その後は納入冊数が限定的であった。そして、「スポーツ・遊戯」は明治18年4月に初めて納入したことがわかった(表3、図3)。

### 4. 武芸書の分析

台帳における「武芸」の項目の冊数をさらに1)「武術」2)「歩兵操練」の2項目に細分化すると、「武術」は86冊、20タイトル、「歩兵操練」は189冊、25タイトルに分けることができた。

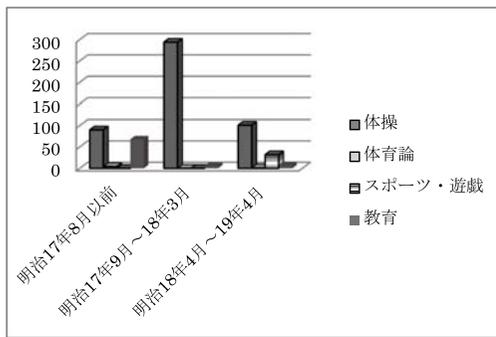


図3 年度別納入冊数(教育、体育)

表3 年度別納入冊数(教育、体育)

	体操	体育論	スポーツ・遊戯	教育
明治17年8月以前	90	4	0	68
明治17年9月～18年3月	294	0	0	6
明治18年4月～19年4月	101	1	32	7
合計	485	5	32	81

そして、上記の細分化した2項目を1) 明治17年8月以前、2) 明治17年9月～18年3月、3) 明治18年4月～19年4月に分け、冊数を比較してみると、「武術」は明治17年8月以前に86冊を数えることができたが、それ以降は納入されていなかった。一方、「歩兵操練」は明治17年8月以前に52冊、明治17年9月～18年3月に64冊、明治18年4月～19年4月に73冊と継続的に納入されていた(表4、図4)。

### 5. 翻訳書の分析

翻訳書の冊数について、1,538冊の翻訳書を確認することができた。但し、現段階で筑波大学附属図書館や国立国会図書館等において、翻訳書であることが確認できなかったものがあるため、実際はこの数より多くなる可能性がある。

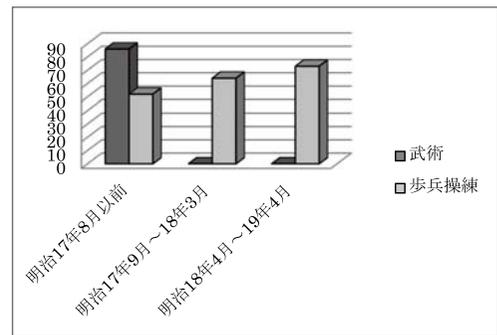


図4 年度別納入冊数(武芸)

表4 年度別納入冊数(武芸)

	武術	歩兵操練
明治17年8月以前	86	52
明治17年9月～18年3月	0	64
明治18年4月～19年4月	0	73
合計	86	189

翻訳書を台帳における分類項目別に分けると、「生理」が662冊で最も多く、全体の43.04%を占めていた。因みに体操伝習所の和漢書中、「生理」に分類されている図書は、全部で680冊であることから、そのほとんどが翻訳書であったことになる。次いで、「解剖」が

25.03%、「健全」が10.92%、「化学」が6.05%、「医学」が2.60%であった（表5、図5）。

また、翻訳書のタイトル数は116タイトルあった。その中で、「叢書」が最も多く23タイトル（19.82%）、次いで、「教育」が15タイトル（12.93%）、「生理」が14タイトル（12.07%）、

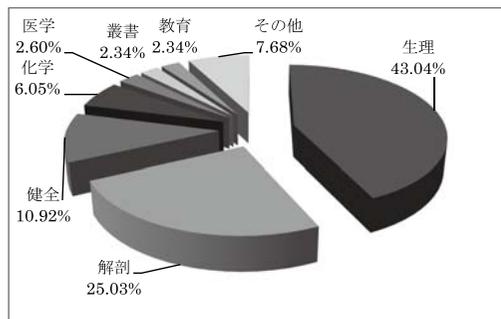


図5 翻訳書分類項目別冊数割合  
※その他（7.68%）には、「博物」、「哲学」、「物理」、「政法」、「薬剤」、「史伝」、「武芸」、「鉱学」、「歌学」、「経済」、「工学」、「画学」、「字書」、「数学」、「天文」、「地学」、「修身」が含まれている。

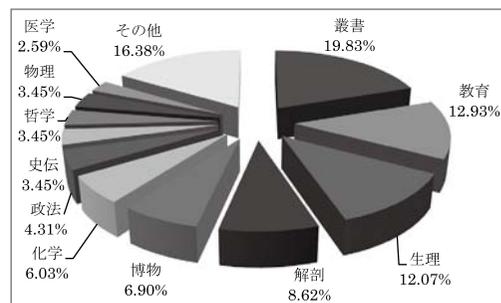


図6 翻訳書分類項目別タイトル数割合  
※その他（16.38%）には、「薬剤」、「鉱学」、「歌学」、「経済」、「工学」、「画学」、「健全」、「武芸」、「修身」、「字書」、「数学」、「天文」、「地学」が含まれている。

表5 翻訳書分類項目別冊数

分類名	冊数	%	哲学	20	1.30	工学	3	0.20
生理	662	43.04	物理	12	0.78	画学	3	0.20
解剖	385	25.03	政法	10	0.64	字書	3	0.20
健全	168	10.92	薬剤	8	0.51	数学	3	0.20
化学	93	6.05	史伝	6	0.39	天文	2	0.13
医学	40	2.60	武芸	6	0.39	地学	2	0.13
叢書	36	2.34	鉱学	6	0.39	修身	2	0.13
教育	36	2.34	歌学	6	0.39	合計	1,538	100.00
博物	21	1.37	経済	5	0.33			

表6 翻訳書分類項目別タイトル数

分類名	タイトル数	%	哲学	4	3.45	健全	1	0.86
叢書	23	19.82	物理	4	3.45	武芸	1	0.86
教育	15	12.93	医学	3	2.59	修身	1	0.86
生理	14	12.07	薬剤	2	1.72	字書	1	0.86
解剖	10	8.62	鉱学	2	1.72	数学	1	0.86
博物	8	6.90	歌学	2	1.72	天文	1	0.86
化学	7	6.03	経済	2	1.72	地学	1	0.86
政法	5	4.31	工学	2	1.72	合計	116	100.00
史伝	4	3.45	画学	2	1.72			

「解剖」が10タイトル(8.62%)であった(表6、図6)。

次に、翻訳書の原典を言語別に見てみると、英語が1,341冊(87.19%)、61タイトル(51.69%)と最も多かった。次いで、ドイツ語が108冊(7.02%)、19タイトル(16.10%)であり、「生理」「医学」「解剖」等の分野に多く見られた。フランス語は「教育」「地学」「哲学」「武芸」に見られたが、21冊(1.37%)、5タイトル(4.24%)と、その数はそれほど多くはなかった(表7、表8、図7、図8)。

また、英語文献における原著者の出身国を解明できる範囲で調べると、「アメリカ」が972冊、22タイトル、「イギリス」が357冊、29タイトルとなった。

さらに、翻訳書とは別に、原典ではなく、外国人の講義を元に書かれたものや、国外の図書を参考にしたり、翻訳ではなく著者の意見を加えて書かれたりした図書もあった(表9)。

## II. 図書台帳の考察

### 1. 考察の視点

体操伝習所の旧蔵書を考察するに当たり、体操伝習所に関係した主要人物と体操伝習所が

行った主要事業を考慮することにした。それは、図書の選定に際しては、まず体操伝習所にかかわった主要な人物の体育や教育や教養についての考え方が影響したと考えられるからである。そしてまた、体操伝習所がどのような役割を担っていたのかということも、少なからず影響していると思われるからである。

体操伝習所の運営や教育にかかわった主要な人物を挙げるとすれば、次の3名になろう。すなわち、体操伝習所初代主幹の伊澤修二<sup>注2)</sup>、体操伝習所の教師として招聘されたリーランド<sup>注3)</sup>、そしてはじめはリーランドの通訳として勤務し、後に体操伝習所の教師となった坪井玄道<sup>注4)</sup>である。

次に、体操伝習所の主要な事業としては、まず、設立の目的でもあったわが国に相応しい体育法の選定と体育教員の養成を挙げねばならない。『体操伝習所一覧 明治十七年、明治十八年』には体操伝習所設立の目的について、「専ラ体育ニ関スル諸学科ヲ教授シ以テ本邦適切ノ体育法ヲ撰定シ且体育学教員ヲ養成スル所トセリ<sup>1)</sup>」と書かれている。わが国に相応しい体育法の選定と体育教員の養成、この二つは体操伝習所の重要な事業であった。

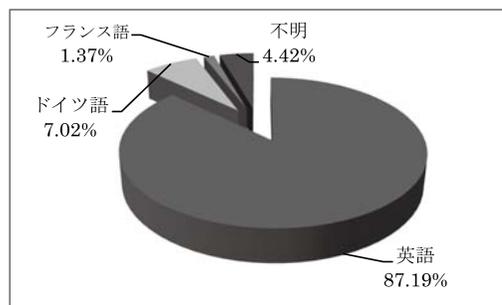


図7 翻訳書原典語別冊数割合

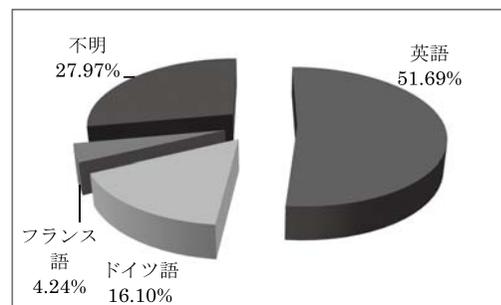


図8 翻訳書原典語別タイトル数割合

表7 翻訳書原典語別冊数

言語	冊数	%
英語	1,341	87.19
ドイツ語	108	7.02
フランス語	21	1.37
不明	68	4.42
合計	1,538	100.00

表8 翻訳書原典語別タイトル数

言語	タイトル数	%
英語	61	51.69
ドイツ語	19	16.10
フランス語	5	4.24
不明	33	27.97
合計	118	100.00

さらに体操伝習所の事業には次の二つの調査研究が加わった。一つめは明治 16 (1883) 年に行われた剣術・柔術に関する調査である。『体操伝習所一覧』には次のように記されている。

「明治十六年五月文部省ノ達旨ニ基キ本邦剣術柔術等教育上所用ノ利害適否取調ヘノ方法等ヲ定メンカ為メ特ニ其掛員ヲ設ク (中略) 九月東京大学医学部教師独人ベルツ、スクリバノ二

氏ヲ招シテ柔術ノ勢法試合等ノ視察ヲ需メ其状況ニ徴シテ人身ノ生理ニ及ホス医学上ノ意見ヲ質シ大ニ該術ノ利害討究上ニ便宜ヲ得タリ<sup>12)</sup>」

調査研究の結果、体操伝習所は剣術・柔術の学校体育への導入について否定的な結論を出し、翌年文部省に報告している<sup>13)</sup>。一つめは歩兵操練科に関する研究調査である。この件に

表 9 講義や交流、海外文献等による図書

日本語タイトル	講義を行った人物、引用文献の原著者	部数	冊数	分類	説明
越氏生理各論	Christian Jacob Ermerins	1	11	生理	越爾茂哇斯 (エルメレンス) 氏の講義をまとめたもの
満氏生理書	C G Van Mansvelt	2	6	生理	大阪病院における生理学の講義
養生訓蒙	不明	1	1	生理	先哲の研究を参考にしたもの。特に「ヘルマン」氏の生理學と「ロベール、セーム、マン」氏の健全學による。
六門系統解剖圖	ヘンレー氏、ハイツマン氏	1	1	解剖	ヘンレー氏の 1871-1877 年の書及びハイツマン氏の 1875 年の人体解剖図を参照
人體組織概要	ギールケ選述		3	解剖	ギールケ氏が組織学の備忘録及びドイツ刊行の新著より撰述
醫科全書 生理篇	Ernst Tiegel		11	医学	ドクトル チーゲル氏の講義
醫科全書 解剖篇	Carl Heitzmann		27	医学	ミュルレル、ホフマンの講述
試金要略	テオドル・リヒテル	1	1	博物	岩佐巖氏がドイツでテオドル・リヒテル氏との親交から得た知識を撰述したもの
晶形學	Heinrich Edmucd Naumann	1	1	博物	主にナウマン氏金石学、他にローゼ氏結晶学、コペル氏金石学、コップ氏結晶学を参考にしたもの
涅氏冶金学	Curt Netto		3	鉱学	東大ドイツ人教師ネットーの講義
涅氏冶金学付図	Curt Netto	3	3	鉱学	東大ドイツ人教師ネットーの講義
体育論	George Adams Leland	1	1	教育	リーランド氏の講義をまとめたもの
音楽指南	Luther Whiting Mason	3	3	歌学	ルーゼルに質問しながら作成したもの
無機化学	Alexander Langgard	15	30	化学	アドルフピンネル氏グロープベゾネツ氏の著書『新式化学書』と東大医学部教師ランガルトから学んだことを引用
教育辞林	シェミッド	3	3	字書	シェミッドの本を参考にしたもの

ついて『体操伝習所一覧』は次のように記している。

「全月（明治17年2月 - 引用者）文部省令スルニ官立公立学校（小学校ヲ除ク）ニ於テ演習スヘキ歩兵操練科ノ程度施行ノ方法及ヒ小学校ニ於テ該科施行ノ適否等取調フヘキ旨ヲ以テス此月歩兵大尉倉山唯永文部省御用掛兼勤本所勤務トナル<sup>14)</sup>」

体操伝習所は研究調査の結果、学校体育への導入を是とする結論を出し、同年の10月、文部省に報告した<sup>15)</sup>。

これら4つの事業は、体操伝習所の役割やその後のわが国の学校体育の方向性を規定する内容を含んでおり、体操伝習所の蔵書傾向にも少なからず影響を及ぼしたものと考えられる。

## 2. 和漢書の全体的な特徴

### 1) 分野の多様性

体操伝習所は体育に関する専門的な教育機関であったが、体育に関係する分野に限ることなく幅広い分野の書籍が備えられていた。表1から分かるように、和漢書の類別は34を数えた。このような幅広い分野の図書構成に関しては、リーランドと伊澤修二の考えが反映されていたと考えられる。

リーランドはハーバード大学で医学を修めたが、その前にはアマースト大学で4年間を過ごした。このアマースト大学について今村は「この大学は一世紀半の長年月に亘り、文学や科学のあらゆる領域の教育を続け、小さくはあるがこの種の大学としては、米国でも最も質の高い大学の一つに数えられている<sup>16)</sup>」と述べている。そしてリーランドについても「その青年時代を敬虔な宗教的雰囲気豊かな、しかも人文、自然、社会に互る広い教養課程をもつアマーストに学び、人生における健康の意義を正しく理解するとともに、高度の医学的専門課程を名門ハーバードで学習した人物によって手ほどきされたことは幸いであったというべきである<sup>17)</sup>」と高く評価している。

このようなことから、体操伝習所の蔵書の幅の広さには、リーランドが教養課程を重視したアマースト大学で学んだことが大いに関係しているのではないかと推察される。

次に、東京師範学校校長補だった伊澤は明治

11（1878）年9月6日付で体操取調係を兼務することになり、開設伺いが出される10月8日までの間に伝習所施設に関する設計図その他の必要書類を整えた<sup>18)</sup>。また、「新設体操着手方案<sup>註5)</sup>」を書いて、生徒選定方法、従学方法、体操場建設の目的、着手の順序など、体操伝習所運営の具体的な構想を練ったのである。体操伝習所開学までの経緯や体操伝習所規則などを見ると、体操伝習所開設当初に関する事柄は、ほぼここに書かれたとおりに進行したと見てよい。このように、伊澤は体操伝習所の初代主幹として、開設直後の環境整備に尽力した人物であった。伊澤は後に当時のことを次のように回想している。

「かくしてリーランド氏は十一年の十月来朝したからして余は氏と共に新式の体育法を調査し実行することとなった。乍併学校を建てるも器械を買入れるも一切新しいことであって、何等従来の事物の、採って参考とすべきものが無いからして、其困難といふものは中々容易では無かったのであって、先づ第一には器械に名を付けねばならぬ、勿論英語としてはあるけれ共、これを適切な国語に翻訳するが容易で無い、彼のクラブは棍棒、ワンドは球竿、ダンベルは唾鈴など、実に此時に命名したのであるが、其他握力、胸囲、指極なども当時始めて作った述語である<sup>19)</sup>」

この引用文には直接図書に関する言及はない。しかし、体操伝習所の開設に直接携わり、主幹を務めた人物であれば、設立時の図書の選定にも影響を及ぼしたと考えるのが自然であろう。伊澤は愛知師範学校校長を務めたのち、米国のブリッジウォーター師範学校に学び、その傍らグラハム・ベルに視話法を、またメーソンに音楽を学んでいる。さらに、同校卒業後はハーバード大学理学部に進んだ<sup>20)</sup>。このような幅の広さが体操伝習所開設当初の蔵書構成にも反映されたのではないと思われる。特に和漢書に関しては、リーランドではなく伊澤の影響が大きかったと考えられる。

### 2) 多くを占めた体育書・生理学書・解剖学書

体操伝習所の蔵書の中で冊数の多かった項目を挙げると、「史伝」1,265冊、「生理」680冊、「体育」422冊、「解剖」409冊、「数学」384冊、「武芸」275冊、「類書」236冊、「教育」181冊、「健

全」168冊、「字書」136冊であった。なお、明治17(1884)年8月までは体操書は「体育」ではなく「教育」に分類されていた。したがって、表3の「明治17年8月以前」の「体操」90という数字は「教育」から取り出して示した数字である。これを体育に加えると、上記の「体育」422冊は実際には512冊であった。第1位の「史伝」を除くと、冊数の多い順に「生理」「体育」「解剖」となる。これは体操伝習所で行った体育の内容を表しているように思われる。

そもそも体操伝習所設立の目的は、前述したようにわが国に相応しい体育法を選定することと、それを指導する教員を養成することであった。したがって、「体育」の冊数が多かったことは当然であるが、「生理」と「解剖」がそれぞれ2位と4位を占めて多くの冊数を数えたことは、体操伝習所の「体育」が生理学と解剖学に基づくものであったことを物語っている。学科課程表には「体操」「体育論」と並んで「生理学」が示されており<sup>21)</sup>、その授業の要旨は次のように説明されていた。

「生理学ハ体育上最緊要ノ科ナリ之ヲ授クルニハ先ツ人体ノ構造組織ヨリ各機関ノ作用等ヲ説キ以ッテ人身生理ノ概略ヲ知ラシム又之ヲ授クルノ際人体解剖ノ図骨格及模型等ヲ示シテ確實ノ知識ヲ与ヘンコトヲ務ム<sup>22)</sup>」

また、図書台帳にも記載があるが、筑波大学附属図書館には体操伝習所におけるリーランドの講義をまとめた『体育論<sup>23)</sup>』という書物が存在する。リーランドがハーバード大学医学部出身であったことから想像がつくが、この書に記されている体育論は明らかに医学的な体育論である。このことも体操伝習所の体育が生理学と解剖学に基づく医学的な体育であったことを示している。当時、このような医学的素養を身に付けた指導者による医学的な体育は決して珍しいことではなかった。今村はリーランドの業績を称えた文の中で、「近代文明諸国の体育は、殆ど例外なく医学者又は医学的知識の豊かな人たちによって開拓されている<sup>24)</sup>」と述べている。なお、リーランドは東京大学医学部にも体育部を開設したいと考えていた。彼が体操伝習所主幹伊澤修二に提出した意見書には、体操伝習所の体操教場設備について感謝の意を伝えたあとで、「他日東京大学医学部附属永久体

育部新築ニ至ラバ余等ハ「ドクトル」ヒチコック氏及其他ノ諸氏ヨリ得ル所ノ意見ト余等ガ今日実験セル所トヲ以テ他ニ一点ノ欠典ナキ第一等ノ家屋ヲ設立センコトヲ務ムベシ<sup>25)</sup>」という一節がある。

### 3. 体育書の大半を占めた体操書

「体育」と「教育」の項目に分類された書籍の分析結果は表3のとおりであり、全603冊中体操書が485冊(80.43%)と圧倒的多数を占めた。また、体操書485冊のうち、体操伝習所が発行した『新撰体操書』(1882)と『新制体操法』(1882)がそれぞれ100冊、また坪井玄道と田中盛業の共著『小学普通体操法』(1884)が66部132冊、合計332冊(68.45%)を占めていた。これらの書はいずれも軽体操を解説したものであり、『新撰体操書』と『新制体操法』はいずれも教科用図書表に参考書として指定されていた<sup>26)</sup>。『小学普通体操法』も冊数の多さからすると、ほぼ同じような使われ方をしたのではないかと考えられる。

体操伝習所は体操の授業要旨を次のように述べている。

「体操ハ主トシテ軽運動ニ基キ先ツ整頓法ヨリ始メ矯正術ヲ授ケ漸ク進ミテ徒手、哑鈴、球竿、棍棒、木環及豆囊ノ諸運動ニ及ホシ技術稍練熟スルニ從ヒ乃人員ヲ限リテ時ニ端船操槽ノ技ヲ実地ニ演習セシム<sup>27)</sup>」

このことは、体操伝習所における実技教育の主な内容が軽体操を中心とした体操であったことを示している。体操伝習所主幹の伊澤修二は体操伝習所開設約1年後の明治12(1879)年9月、東京女子師範学校、東京師範学校及び体操伝習所の生徒に実施した体操の成績を報告した。その中で体育法としての体操の有用性について次のように述べている。

「世或ハ撃劍練兵等ヲ以テ至良ノ体育法トシ漫ニ之ヲ学校ニ施行セント欲スルノ徒ナキニ非ス因テ数言ヲ費シテソノ価格如何ニ論及セン抑撃劍ノ如キ練兵ノ如キ其技術自ラ体育ヲ裨ケザルニアラズト雖トモ其目的トスル所ハ素ト育成ノ法ニ非ズシテ却テ防護ノ一主義ナリ是ヲ以テ身体諸部ヲ使用シテ之ヲ發育スルコトアルモ惟支体ノ若干部ニ偏止シテ其全部ニ普及スルコトナシ之ヲ完全ナル体操法ノ専ラ育成ヲ目的ト

スル者ニ比セバ其ノ価値幾等ヲ下ルコト知者ヲ待タズシテ知ルベキナリ<sup>28)</sup>」

体書が多いという蔵書の傾向もそのことを裏付けるものであった。なお、上に挙げた『新撰体操書』『新制体操法』『小学普通体操法』の内容は、明治30年に中学校師範学校教科用書として文部省から刊行された『普通体操法』に引き継がれ、明治期を通じてわが国学校体育の主要な教材の一つとなった。

#### 4. 僅少なスポーツ・遊戯書

表3からわかるように、スポーツ・遊戯書は「体育」「教育」に分類された書籍603冊中32冊(5.31%)に止まった。その内訳は『戸外遊戯法 一名戸外運動法<sup>29)</sup>』31冊と『西洋戸外遊戯法<sup>30)</sup>』1冊のみである。このように和漢書のスポーツ・遊戯書は2タイトルのみであり、極めて少なかった。これらの2書が刊行されたのはいずれも明治18(1885)年であり、出版直後の同年4月から5月にかけて体操伝習所の蔵書に加えられたものである(表10参照)。

体操教育を主としていた体操伝習所ではあったが、スポーツに全く無関心であったわけではない。正課時間外ではあるものの、明治17年から教科細目に戸外運動として蹴鞠(フットボール)、投毬(クリケット)、投環(クォイツ)、循環球(クロッカー)、ベースボール、トロッコが、また操櫓術として端船操櫓法、競走演習が挙げられていた<sup>31)</sup>。坪井玄道は晩年に当時を回顧して次のように述べている。

「各学校の運動会の如きも、最初は伝習所で催うしたが、伝習所の卒業生が追ひ追ひ各学校へ配置されるやうになって、体操も運動会もだんだん自分の学校でやるやうになった。又此頃からボートレースを生徒にやらした。一つ橋の下へボートを繋いで置いて、其処から日本橋を経て永代橋に出で、それから向島まで漕いで行くのは容易でなかった。猶ベースボールも教へた。併し此頃は空拳でキャッチをやるので、大抵指を曲げて了つた<sup>32)</sup>」

明治17年の教科用図書表<sup>33)</sup>に参考書として記載のある遊戯書はいずれも西洋書であったが、明治18年からは坪井玄道・田中盛業の『戸外遊戯法 一名戸外運動法』も31冊という数から参考書に加えられたのではないかと考えられ

る。

ところで、坪井は何を参考にこの書を書いたのだろうか。図書台帳記載の西洋書中には11タイトルのスポーツ・ゲーム書が確認されている<sup>34)</sup>。おそらく坪井はこれらの西洋書を参考にしたのではないかと推察される。『戸外遊戯法 一名戸外運動法』とこれら11タイトルの西洋書との比較研究が今後の課題となろう。

#### 5. 不要とされた武術書

体操伝習所図書台帳の「武芸」には武術書と歩兵操練書が含まれていた。表4、図4からわかるように、武術書は明治17(1884)年8月以前のみに見られる。その背景には、明治16年5月に文部省が体操伝習所に対して、剣術及び柔術の教育上の利害適否に関する調査を命じたことがあったと考えられる<sup>35)</sup>。明治17年10月、体操伝習所は文部省への答申で「学校ノ正課トシテ採用スルコトハ不適當」としたのであった<sup>36)</sup>。このような結論に至ったのは、体操伝習所の指導者達が学校体育法を主として生理学、解剖学、衛生学の面から規定しようとしていたためだと考えられている<sup>37)</sup>。

ところで、体操伝習所初代主幹の伊澤修二はその著『教育学』の第4編で体育を論じ、「武芸の益」について次のように述べている。

「剣術、槍術、柔術、弓術等ハ古来武芸ト称シ来タリタルモノニシテ数十年前マテハ盛ニニ我国内ニ行ハレ今日ノ本邦人中ニハ此諸種ノ武芸練習ニヨリテ強壯ナル体格ヲ造成シタルモノ甚多シトス(中略)然ルニ今日此等諸術ノ漸ク衰頽ニ趣シ所以ハ他ナシ人智ノ開明ニ進ムニ随テ軍器ノ制亦一変シ近來洋風ノ銃槍一タヒ本邦ニ傳ハリシ以來独リソノ勢力ヲ軍事ニ専ラニシ從來ノ武術ハ僅々其用ヲ見ルニ過キサルニ至リシヲ以テ漸ク其用ヲ失ヒ随テ衰敗ノ兆ヲ顯ハシタルモノナリ然レトモ之ヲ体育ノ一法トシテ見ルトキハ決シテ價格ナシト云ウ可ラス<sup>38)</sup>」(下線部、引用者)

したがって、伊澤は体育法としての武術の価値を否定してはいなかったのである。明治17年8月以前においては武術に関する書籍が加えられていたにもかかわらず、同年9月以降は1冊も加えられなくなったこと背景には、初代主幹伊澤修二の体育法として武術を評価する考

え方と、学校体育への武術の導入に否定的な結論を出した明治16～17年の剣術・柔術に関する調査の影響があったと推察される。

## 6. 必要度を増した歩兵操練書

歩兵操練は明治13(1880)年9月に体操伝習所の科目として加えられ、同年11月から陸軍教導団付士官1名、下士官3名を教官として、毎週3回の授業が行われた<sup>39)</sup>。おそらくこの頃から歩兵操練関係の書物が蔵書に加えられるようになったと思われる。明治16年12月28日の徴兵令改正の結果、「現役中殊ニ技芸ニ熟シ行状方正ナル者及官立公立学校(小学校ヲ除ク)ノ歩兵操練科卒業証書ヲ所持スル者ハ、ソノ期末ダ終ワラスト雖モ帰休ヲ命ズルコトアルベシ<sup>40)</sup>」と成績優秀者に対する在営年限の短縮が認められたため、翌17年2月、文部省は学校で行われるべき歩兵操練の程度、実施方法、及び小学校にそれを実施することの是非を調査研究するよう伝習所に命じたのである<sup>41)</sup>。同年10月、調査事項の一部がまとめられ、文部省に答申している。その後もこの種の書籍は数を増やしていった。明治19年の学校令にみる兵式体操並びに隊列運動(小学校)はこの答申に基づくものであったと考えられる<sup>42)</sup>。

## 7. 体操伝習所の教育を支えた翻訳書

前述したように、和漢書4,945冊の中で翻訳書は1,538冊(31.10%)を占めた。これは欧米から新たな学問を吸収するのに必死であったこの時期の特徴であろう。中でも生理学と解剖学に関する翻訳書の割合が多くを占めているが、これは前述したように体操伝習所の体育の基礎が生理学と解剖学に置かれていたことによる。『健全学』168冊、『弗氏生理書』392冊、『達爾頓氏生理書』153冊と多くを記録したこれらの図書のうち、『弗氏生理書』は教科書、『健全学』と『達爾頓氏生理書』は参考書に指定されたものである。また、言語別では英語文献からの翻訳が多くを占めていた。これらを総合すると、主に英語の医学関係書からの翻訳書を用いて体操伝習所の学科の講義が行われていたといっ

## まとめ

本研究により、以下の点が明らかとなった。

- 1) 体操伝習所の図書台帳に記載された和漢書は、4,945冊、323タイトルあった。また34項目の分野から構成されており、幅広い分野の書籍を備えていた。それは、リーランドと伊澤修二の考えが反映されていたと考えられ、特に和漢書に関しては、伊澤の影響が大きかったと思われる。
- 2) 分類項目別冊数は、「史伝」1,265冊(25.58%)、「生理」680冊(13.75%)、「体育」422冊(8.53%)の順で多くを数えた。またタイトル数は、「武芸」45タイトル(13.93%)、「教育」31タイトル(9.59%)、「叢書」25タイトル(7.73%)の順であった。
- 3) 「体育」の書籍の80.43%は体操書であった。そして体操書は継続的に納入されていた。その中でも軽体操の書籍が多く、体操伝習所における実技教育の主な内容が軽体操を中心とした体操であったことが蔵書からも裏付けられた。
- 4) 「体育」の書籍以外にも「生理」と「解剖」の書籍が多く備えられていた。それは、体操伝習所の体育が生理学と解剖学に基づくものであったことを物語っている。
- 5) スポーツ・遊戯書は2タイトルと極めて少なく、明治18(1885)年4月に初めて納入されていた。
- 6) 武術書は86冊、20タイトルあった。しかし、この数字は明治17年8月以前のみに見られたものであった。明治17年8月以前に武術書が納入されていたのは、体操伝習所の初代主幹であった伊澤が体育法としての武術の価値を認めていたからであり、それ以後に武術書が納入されなくなったのは、明治16年から17年にかけて体操伝習所で剣術・柔術に関する調査が行われ、学校体育への導入に否定的な結論を出したからだと考えられる。
- 7) 歩兵操練書は189冊、25タイトルであった。そして歩兵操練書は継続的に納入されていた。それは明治13年9月に体操伝習所の科目として歩兵操練が加えられたこと、明治17年の歩兵操練に関する調査で学校体育への導入に肯定的な結論を出したことが影響したと考えられる。

8) 和漢書 4,945 冊の中で翻訳書は 1,538 冊 (31.10%) を占めていた。翻訳書の分類項目別冊数は、「生理」662 冊 (43.04%)、「解剖」385 冊 (25.03%)、「健全」168 冊 (10.92%) の順で多く、また言語別に見ると、英語が 1,341 冊 (87.19%)、ドイツ語が 108 冊 (7.02%)、フランス語が 21 冊 (1.37%) であった。よって、体操伝習所の学科教育は、主に英語の医学関係書からの翻訳書を用いて行われていたと言えよう。

## 注

1) 体操伝習所は明治 18 (1885) 年に東京師範学校附属となった。翌 19 年に廃止され、東京師範学校に体操専修科が設置された。東京師範学校はその後、高等師範学校、東京高等師範学校と改称され、体操専修科は大正 4 (1915) 年に開設された体育科の母体となった。

2) 伊澤修二の略歴は以下のとおりである。

1851 年 信濃国伊奈郡高遠城下東高頭大屋敷に生まれる。

1870 年 高遠藩の貢進生に選ばれ大学南校に入学。

1872 年 退学して文部省出仕となる。

1874 年 愛知師範学校長に補せられる。

1875 年 師範学科取り調べのため米国に派遣、マサチューセッツ州ブリッジウォーター師範学校に入学。

1876 年 文部大輔田中不二麿に会い、臨時教育制度の調査を命じられる。この年、グラハム・ベルについて視話法を、メーソンについて音楽を学ぶ。

1877 年 ブリッジウォーター師範学校卒業。ハーバード大学入学、理化学を修める。

1878 年 帰国、東京師範学校雇、同校長補となる。体操伝習所設立後、その主幹を兼務する。

1879 年 東京師範学校長となる。体操伝習所は解任、音楽取調御用掛を兼務する。

1888 年 東京音楽学校長となる。

1896 年 台湾総督府民生部学務部長となる。

1899 年 東京高等師範学校長となる。

1903 年 吃音矯正事業のため、楽石社設立。

1917 年 死去

(上沼八郎 (1988) 伊沢修二. 吉川弘文館, 新装版. 及び, 高遠図書館 (1987) 伊沢修二-その生涯と業績-. 高遠町より)

3) リーランドの略歴は次のとおりである。

1850 年 米国マサチューセッツ州ボストンに生まれる。

1870 年 アマースト大学入学。

1874 年 アマースト大学卒業、ハーバード大学医学部入学。

1877 年 ハーバード大学医学部卒業。

1878 年 来日、体操伝習所教師となる

1881 年 体操伝習所教師を辞し、欧州で医学研究を行う。

1882 年 米国帰国

1912 年 米国咽頭学会会長となる。

1919 年 日本から勲 4 等の勲章を受章。

1924 年 死去

(今村嘉雄 (1968) 学校体育の父リーランド博士. 不昧堂書店より)

4) 坪井玄道の略歴は次のとおりである。

1852 年 下総国東葛飾郡中山村鬼越に生まれる。

1872 年 東京師範学校で米国人スコットの通訳を務める。

1875 年 宮城英語学校教諭となる。

1877 年 仙台中学校教諭となる。

1878 年 体操伝習所でリーランドの通訳を務める。

1881 年 リーランド帰国後、体操伝習所の主任教師となる。

1886 年 高等師範学校助教諭となる。

1887 年 高等師範学校教諭となる。

1890 年 高等師範学校教授兼女子高等師範学校教授となる。

1901 年 欧州留学へ出発する。

1902 年 米国経由で帰国する。

1904 年 文部省体操遊戯取調委員となる

1909 年 東京高等師範学校教授並びに、女子高等師範学校教授を辞職

1912 年 東京女子体操音楽学校名誉教授となる。同年、死去

(市川市立市川博物館：坪井玄道年譜 市川の生んだ近代スポーツの父坪井玄道展〈1978.4.19～5.14〉資料より)

5) 上伊那郷土館所蔵。実際には無題だが、こ

れまで「新体操実施の方法」「新設体操着手方按」「新体操法実施について」などとも呼ばれてきた。

#### 引用・参考文献

- 1) 阿部生雄・篠塚富士夫・都筑 真・梶 孝之・鄭 光植・今野和志(2009)資料：体操伝習所旧蔵書文献目録に関する調査研究－「西洋書」を中心に－. 筑波大学体育科学系紀要, 32, 113-133 頁.
- 2) 大場一義(1965)体操伝習所旧蔵書についての研究. 体育学研究, 10-1, 54 頁.
- 3) 大場一義(年代不明)体操伝習所旧蔵書についての研究(参考資料). (日本体育学会で口頭発表した際の配布資料だと思われる)
- 4) 大場一義(1983)幕末・明治初期の体育関係書について－体操伝習所旧蔵書を中心に－. つくばね, 9-3, 4-6 頁.
- 5) 木村吉次(1996)アマースト大学の健康講義資料と体操伝習所の教育. 体育史研究, 13, 15-24 頁.
- 6) 木村吉次(1996)体操伝習所の医学関係図書に関する一考察. 中京大学体育学論叢, 37-2, 1-11 頁.
- 7) 大熊廣明(1999)体操伝習所旧蔵書が語るもの. つくばね, 25-3, 9-11 頁.
- 8) 大熊廣明(2000)体操伝習所に関する資料とその周辺. 筑波大学前史資料調査室ニューズレター, 3, 11-12 頁.
- 9) 筑波大学体育科学系・筑波大学附属図書館(1999)身体と遊戯へのまなざし－日本近代体育黎明期の体操伝習所(明治11年～19年)－. 展示目録.
- 10) 文部省(1886)文部省第十三年報、付録. 文部省, 434 頁.
- 11) 体操伝習所(年代不明)体操伝習所一覽. 明治十七年, 十八年. 体操伝習所, 1 頁.
- 12) 同上書, 5 頁.
- 13) 文部省(1886)文部省第十二年報. 文部省, 29-30 頁.
- 14) 前掲書 11), 6 頁.
- 15) 前掲書 13), 29-30 頁.
- 16) 今村嘉雄(1968)学校体育の父リーランド博士. 不昧堂書店, 48 頁.
- 17) 同上書, 60 頁.
- 18) 今村嘉雄(1970)日本体育史. 不昧堂出版, 342 頁.
- 19) 伊澤修二君還暦祝賀会編(1912)楽石自伝教会周遊前記. 伊澤修二君還暦祝賀会, 51-52 頁.
- 20) 上沼八郎(1988)伊澤修二. 吉川弘文館, 新装版, 64-76 頁.
- 21) 前掲書 11), 付表.
- 22) 前掲書 11), 11-12 頁.
- 23) 体育論. 筑波大学附属図書館蔵. 「李蘭土講義體育論」と称されることもある.
- 24) 前掲書 16), 60 頁.
- 25) ジョージ・エー・リーランド(坪井玄道訳)(1879)体操伝習所訓導米人リーランド氏ヨリ同所長伊澤修二ニ呈セル意見書. 教育雑誌, 94, 1-33 頁.
- 26) 前掲書 11), 15 頁.
- 27) 前掲書 11), 10-11 頁.
- 28) 伊澤修二(1879)体操伝習所新設体操成績報告. 23 頁.
- 29) 坪井玄道・田中盛業(1885)戸外遊戯法一名戸外運動法. 金港堂.
- 30) 下村泰大(1885)西洋戸外遊戯法. 泰盛館.
- 31) 前掲書 11), 20-21 頁.
- 32) 坪井玄道(1922)創業時代の師範教育－体操伝習所の設置. 国民教育奨励会編, 教育五十年. 民友社, 22 頁.
- 33) 体操伝習所(1884)明治十七年二月改正体操伝習所規則. 体操伝習所, 3 頁.
- 34) 前掲書 1), 121 頁.
- 35) 文部省(1985)文部省第十一年報. 文部省, 28 頁.
- 36) 今村嘉雄(1967)十九世紀に於ける日本体育の研究. 不昧堂書店, 885-887 頁.
- 37) 前掲書 18), 346-348 頁.
- 38) 伊澤修二(1883)教育学. 丸善商社書店, 再刻合刊, 184-185 頁.
- 39) 前掲書 36), 884 頁.
- 40) 松下芳男(1981)徴兵令制定史. 五月書房, 487 頁.
- 41) 前掲書 13), 29-30 頁.
- 42) 前掲書 36), 884 頁.

表 10 体操伝習所旧蔵書文献目録（和漢書）

注) 翻訳書には図書名の下に英字で原著者：原書名(斜字)、発行年を明記。外国人の講義をまとめたものや、海外文献を参考にしたもの等はその部分に日本語で説明を付す

番号	図書名	部数	冊数			納入年月	類別
			巻冊記載	増	減		
1	春秋左氏傳校本	1		15			經書
2	國語定本	1		6			〃
3	韓非子全書	1		10			子類
4	補義莊子因	1		6			〃
5	荀子増注	1		11			〃
6	淮南鴻烈解	1		10			〃
7	管子纂話	1		12			〃
8	王注老子道德經	1		2			〃
9	經訓堂本墨子	1		5			〃
10	奚殷氏心理學 思想之法		下冊	1			哲學
11	William Thomson : <i>An outline of the necessary laws of thought</i> , 発行年不明	1		1			〃
12	倍因氏心理新説 Alexander Bain : <i>Mind and body: the theories of their relation</i> , 1875	2		8			〃
13	論理新編 Willam Stanley Jevons : <i>Elementary lessons in logic</i> , 発行年不明	1		5			〃
14	維氏美學 Eugène Véron : <i>Esthétique</i> , 発行年不明	3		6			〃
15	因明初歩	1		1			〃
16	因明大意	1		1			〃
17	因明治眼	1		2			〃
18	演說文章組立法	1		1			〃
19	豪氏法學講義節約 John Austen : <i>Lecture on Jurisprudence, or the Philosophy of Positive Law</i> , 発行年不明	3		6			政法
20	國法汎論 Bluntschli Johann Gaspar : <i>Allgemeines Staatsrecht</i> , 発行年不明		上秩第十冊	1			〃
21	類聚法規		第五編迄	21			〃
22	官令全報		自十四年至十五年	4			〃
23	文部省布達全書		自明治四十至十元	9			〃
24	教育令明治十二年九月頒布	2		2			〃
25	教育令明治十三年十二月改正	1		1			〃
26	官令新誌附録(新律綱領 改正律例 改正條例 刊名便蒙表)			2			〃
27	改訂徵兵令	1		1			〃
28	出版條令并罰則及庶願書式	1		1			〃
29	英政沿革誌 Alfred P Hensman : <i>Handbook of constitution</i> , 1860	1		1			〃
30	制度通	1		8			職官
31	家事要法 Catharine Esther Beecher, Stowe Harriet Beecher : <i>Principles of domestic science</i> , 発行年不明	1		2			經濟
32	旧奔斯著貨幣説 Willam Stanley Jevons : <i>Money and the mechanism of exchange</i> , 発行年不明	3		3			〃
33	統計要覽	1		1			統計
34	斯氏教育論 Herbert Spencer : <i>Education: intellectual, moral, physical</i> , 発行年不明	2		2			教育
35	教育學	1		2			〃
36	小学教育新篇	8		40			〃
37	塞兎敦氏庶物指数 シエルドン : タイトル 発行年不明	1		2			〃
38	法國教育説略 Michel Bréal : <i>Quelques mots sur l'instruction publique en France. Paris. Hachette. 1872</i>	1		1			〃
39	平民學校論略 Karl Kehr : タイトル 発行年不明	1		1			〃
40	米國學校法 Benjamin Franklin Butler : <i>The Law School Papers of Benjamin F. Butler: New York University School of Law in the 1830s (Contributions in Legal Studies)</i> , 1876	3		6			〃

41	和氏授業法 Alfred Holdrook : <i>The normal; or, Methods of teaching the common branches, orthoepy, orthography, grammar, geography, arithmetic and education</i> , 1869	1	1			''
42	學校管理法続共	1	2			''
43	小學指教圖	1	5枚			''
44	新制躰操法	31	31			''
45	新撰躰操書	30	30			''
46	躰操書 Charlmaigne Vergnes : <i>Manuel de gymnastique à l'usage des écoles primaires, des écoles normales primaires, des lycées et des collèges</i> , 発行年不明	1	6			''
47	新設躰操教授書後篇共	1	2			''
48	躰操教練書	5	5			''
49	小學徒手躰操新書	1	1			''
50	躰操教範	10	10			''
51	小學躰操書	1	1			''
52	躰育論 George Adams Leland : リーランド氏の講義をまとめたもの	1	1			''
53	小學作法書		3			''
54	倍因氏教育學 Alexander Bain : <i>Education as a science</i> , 1875		3			''
55	小學躰育全書	1	3			''
56	啞鈴躰操新法	1	1			''
57	小學普通躰操法	1	2			''
58	躰操図	1	1			''
59	小學唱歌集	2	2			歌學
60	唱歌掛図	2	4			''
61	楽典	3	3			''
62	音楽指南 Luther Whiting Mason : ルーゼルに質問しながら作成した	3	3			''
63	小學修身訓	3	6			修身
64	威氏修身學 Francis Wayland : <i>The elements of moral science</i> , 1874	1	2			''
65	小學定本	18	72			''
66	白鹿洞書院揭示	5	5			''
67	小學修身書		自首卷至卷五	6		''
68	手銃分解圖及名稱	4	4			武藝
69	歩兵操典	13	スナイドル銃使用部	13		''
70	歩兵操典	13	生兵之部	13		''
71	歩兵操典	13	中隊之部	13		''
72	英國歩共練法	1		9		''
73	弓之傳書	1		2		''
74	射學美人草	1		1		''
75	射學要録	1		2		''
76	射學正宗	1		3		''
77	式正的ノ巻	1		1		''
78	堅物傳	1		1		''
79	橘家慕目口傳秘巻	1		2		''
80	橘家鳴吹口傳巻	1		1		''
81	橘家鳴吹巻	1		1		''
82	射儀後細論	1		1		''
83	本朝弓馬要覽	1		6		''
84	本朝武藝小傳	1		5		''
85	武用辨略	1		8		''
86	武道辨蒙録	1		5		''
87	大坪本流両翼之巻	1		11		''
88	貞丈雜記	1		32		''
89	夕雲流劍術書	1		1		''
90	劍術実行	1		1		''
91	本朝古今劍術名数	1		1		''
92	點註唐宋八家文読本	1		16		文章
93	日本八大家文続本	8		4		''
94	文章軌範評林	1		6		''
95	標箋文章軌範	8		48		''
96	文章軌範纂評	1		3		''
97	文章軌範纂評		巻二	1		''
98	方正學文粹	1		2		''
99	近世名家文抄	1		4		''
100	尺牘雙魚	1		5		''
101	宋元通鑑	1		48		史傳

102	資治通鑑	1		148		''
103	通鑑肇要	26		390		''
104	綱鑑易知録	1		48		''
105	明鑑易知録	1		7		''
106	史記評林	1		25		''
107	二十一史略	1		7		''
108	戰國策正解	1		8		''
109	逸史	1		13		''
110	標記本朝通鑑	3	自首卷至 ●●●●	102		''
111	大日本史	1		100		''
112	校刻日本外史	1		12		''
113	皇朝史略	1		7		''
114	國史案		卷ノ二	1		''
115	續西史綱紀		卷ノ一及二	2		''
116	奥氏佛國史 ジョン・カルコット：タイトル発行年不明	1		2		''
117	希臘史	3	一部(八及 九)	6		''
118	ヒポクラテス略傳	2		2		''
119	紀元年表	1		1		''
120	洛氏天文學 J.N. Lockyer : <i>Elements of astronomy</i> , 1871	1		2		天文
121	小學地誌	3	自卷一至 卷三ノ内	7		地學
122	地理論略	1		1		''
123	兵要日本地理小誌	1		3		''
124	輿地誌略	1		13		''
125	日本地誌提要	1		8		''
126	地震學	1		1		''
127	勞氏地質學 Victor Raulin : <i>Éléments de géologie</i> , 1869	1		2		''
128	地質一覽			3枚		''
129	日本里程總覽	1		1		''
130	唐土歴代洲郡沿革圖	1		1		''
131	新撰日本地圖	1		1		''
132	實測（東京省下改正区画郡区町邨明細圖）	1		1		''
133	大日本詳細地圖	1		1		''
134	士都華氏物理學 Balfour Stewart : <i>Lessons in elementary physics</i> , 発行年不明	1		6		物理
135	物理学	17		51		''
136	蘇密士氏静重學 James Hamblin Smith : <i>Elementary Statics</i> , 発行年不明	3		3		''
137	電鑛両氣論 Fleeming Jenkin : <i>Electricity and magnetism</i> , 1876	4		4		''
138	理化小試 Le Roy Clark Cooley : <i>Easy experiments in physical science</i> , 発行年不明	3		3		''
139	顕微鏡用法	1		1		''
140	羅斯有珂氏化學 H.E. Roscoe : <i>Chemistry</i> , 発行年不明	11		46		化學
141	新式有機科學	1		2		''
142	有機化學	1		2		''
143	無機化學 Alexander Langgard : アドルフピン子(ネ)ル氏グローブベツ子(ネ)ツ氏の著書『新式化學書』と東大医学部教師ランガルトから学んだことを引用 丹波敬三訳補:下山順一郎校補	15		30		''
144	多模氏定質分析 T.E.Thorpe M.M.Muir : <i>Qualitative chemical analysis</i> , 発行年不明	3		3		''
145	多模氏定量分析 T.E. Thorpe : <i>Qualitative chemical analysis</i> , 発行年不明	3		3		''
146	小學化學書 H.E. Roscoe : <i>Lessons in elementary chemistry : inorganic and organic</i> , 発行年不明	2		6		''
147	病理総論	1		1		醫學
148	病理各論	1		2		''
149	醫科全書 Ernst Tiegel : ドクトル チーゲル氏の講義	生理學		11		''
150	醫科全書 Carl Heitzmann : ミュルレル、ホフマンの講述	解剖學		27		''
151	診法要訣	1		2		''

152	扶氏薬劑學 Theodor Husemann : Handbuch der gesammten Arzneimittellehre, 発行年不明	3	第一冊及第二冊	6		薬剤
153	薬用動物篇		上巻	1		〃
154	薬用植物篇	1		1		〃
155	満氏生理書 C. G. Van Mansvelt : 大阪病院における生理学の講義	2	自巻一至巻三	6		生理
156	生理提要 Thomas Henry Huxley : <i>Elementary lessons in physiology</i> , 発行年不明	5		60		〃
157	生理提要附録 John C. Dalton : <i>A treatise on human physiology</i> , 1876	1		3		〃
158	達爾頓氏生理書 John C. Dalton : <i>A treatise on human physiology</i> , 1876	7		153		〃
159	弗氏生理書 Joseph Chrisman Hutchison : <i>A treatise on physiology and hygiene for educational institutions and general readers</i> , 1874	31		217		〃
160	越氏生理各論 Christian Jacob Ermerins : 越爾蔑噠斯(エルメレンス)氏の講義をまとめたもの	1		11		〃
161	生理全書	1		2		〃
162	鼈傑児生理學 Ernst Heinrich August Philipp Haeckel : タイトル発行年不明	1		2		〃
163	生理學	1		2		〃
164	歇爾曼生理學 Friedrich Kehrman : タイトル発行年不明	1		2		〃
165	初學人身窮理 Calvin Cutter : <i>First book on anatomy, physiology and hygiene for grammar schools and families</i> , 1854	1		5		〃
166	カトル氏生理養生論 Calvin Cutter : <i>A treatise on anatomy, physiology, and hygiene designed for colleges, academies and families</i> , 1852	20		80		〃
167	達爾頓氏生理書圖 John C. Dalton : <i>A treatise on human physiology and hygiene: for schools, families, and colleges</i> , 1874	10		10		〃
168	養生訓蒙 先哲の研究を参考にしたもの。特に「ヘルマン」氏の生理學と「ロベルト、セムス、ム」氏の健全學による	1		1		〃
169	保衛新論	1		2		〃
170	日本飲食品分析表	1		1		〃
171	人身生理學	1		3		〃
172	長生法	1		1		〃
173	喝氏初學人身窮理 Calvin Cutter : <i>First book on anatomy, physiology and hygiene for grammar schools and families</i> , 1854	1		2		〃
174	普徠氏組織學 Heinrich Frey : <i>Handbuch der Histologie und Histochemie des Menschen</i> , 1875	1		9		解剖
175	人體組織概要 ギールケ選述 : ギールケ氏が組織學の備忘録及びドイツ刊行の新著より撰述		自巻ノ一至巻三ノ上	3		〃
176	解剖嚮要	1		14		〃
177	廣列伊氏解剖訓蒙圖 Henry Gray : <i>Anatomy: descriptive and surgical</i> , 1869	3		3		〃
178	萃氏解剖摘要 Henry Hartshorne : <i>A conspectus of the medical sciences</i> , 1869	38		342		〃
179	改訂解剖訓蒙	1		1		〃
180	紙塑人躰略解	1		1		〃
181	幻燈用解體圖略説 マカリストー : <i>A Brief Essay on Anatomy</i> , 発行年不明	2		2		〃
182	六門系統解剖圖 ヘンレー氏、ハイツマン氏 : ヘンレー氏の1871-1877年の書及びハイツマン氏の1875年の人体解剖図を参照	1		1		〃
183	萃氏解剖摘要圖 Henry Hartshorne : タイトル発行年不明	16		16		〃
184	人身剪形剖躰圖並解 Gustave Joseph Witkowski : タイトル発行年不明			2		〃
185	顕微鏡検査指針	1		1		〃
186	人躰解剖全圖	1		1		〃

187	健全學 Roberuto Zemusu Men : <i>Gesundheitslehre</i> , 1856	28		168		健全
188	植物通解 Asa Gray : <i>Gray's lessons in botany and vegetable physiology</i> , 発行年不明	3		3		博物
189	小石川植物園草木圖説	1		1		〃
190	植物學 トーマイ : タイトル発行年不明		上冊	3		〃
191	植物名柄一斑	1		1		〃
192	普通植物学 Moritz Seubert : <i>Grundriss der Botanik</i> , 発行年不明	1		1		〃
193	應用動物學		自上編卷ノ 二至卷ニ	3		〃
194	試金要略 テオドル・リヒテル : 岩佐巖氏がドイツでテオドル・リヒテル氏との親交から得た知識を撰述したもの	1		1		〃
195	金石一覽 James Dwight Dana : <i>Manual of mineralogy</i> , 発行年不明	3		3		〃
196	晶形學 Heinrich Edmucd Naumann : 主にナウマン氏金石学、他にローゼ氏結晶学、コベル氏金石学、コップ氏結晶学を参考に書す	1		1		〃
197	小学晶形約言			1		〃
198	蘭均士氏土木學 William John Macquorn Rankine : <i>Manual of civil engineering</i> , 発行年不明	3		6		工學
199	譜氏材力論 John Anderson Sir : <i>Strength of material and structures</i> , 発行年不明	1		1		〃
200	幾何新論 続解共	3		9		數學
201	小学数学書 附録共	30		60		〃
202	代數學	30		300		〃
203	代微積全書	3		6		〃
204	査氏微分積分學 Albert E Church : <i>Elements of the differential and integral calculus</i> , 発行年不明		上冊	3		〃
205	略式帳合法附録	1		1		〃
206	帳合之法		自初編一 至二編四	4		〃
207	度量衡標本解説	1		1		〃
208	佩文韻府	1		95		類書
209	五車韻瑞	1		30		〃
210	箋註蒙求校本	1		3		〃
211	子史精萃	1		48		〃
212	小学普通画學本		合綴	30		画學
213	画學教授法 Thomas Tait : <i>Drawing for schools</i> , 1869	1		1		〃
214	小学幾何画法	1		1		〃
215	画學本 Tripon : タイトル発行年不明		第五卷	2		〃
216	康熙字典	1		41		字書
217	増續大廣益會王篇大全	1		12		〃
218	増補合類大節用集	1		13		〃
219	雅俗幼學新書	1		2		〃
220	新鐫校正増補字林玉篇大全	1		1		〃
221	新撰山東玉篇	1		1		〃
222	龍頭東京玉篇	1		1		〃
223	教育辞林 シエミッド : シエミッドの本を参考にした	3	自一至七	3		〃
224	語彙	3	自卷六至 卷一一	21		語學
225	百科全書英国史 原著者不明 : <i>ヒストリー・オブ・グレート・ブリテン・エント・アイランド</i> , 発行年不明	1		1		叢書
226	〃 太古史 原著者不明 : <i>ヒストリー・オブ・アンシエント・ネーションズ</i> , 発行年不明	1		1		〃
227	〃 修字萃文 原著者タイトル発行年不明	1		1		〃
228	〃 亜細亞地誌 原著者不明 : <i>アジア・イースト・インジアン</i> , 発行年不明	1		1		〃
229	〃 南亞米利加地誌 原著者不明 : <i>ソウス・アメリカ・ウエスト・インヂーヌ</i> , 発行年不明	1		1		〃
230	〃 亞弗利加及大洋洲地誌 原著者不明 : <i>アフリカ・オセアニア</i> , 発行年不明	1		1		〃

231	" 蘇格蘭地誌 原著者不明：スコットランド、発行年不明	1		1		"
232	" 体操及戸外遊戯 原著者不明：シムナスチック、アウト、オフ、ツールクレーションズ、発行年不明	1		1		"
233	" 戸内遊戯方 原著者不明：インツール、エミューズメント、発行年不明	1		1		"
234	" 算術及代数 原著者不明：アリスメチック、アルチブラ、発行年不明	1		1		"
235	" 動物綱目 原著者不明：ゾーロジー、発行年不明	3		3		"
236	" 植物綱目 原著者不明：システマチック、ボタニー、発行年不明	1		1		"
237	" 自然神数及道徳學 原著者タイトル発行年不明	3		3		"
238	" 印刷術及石版術 原著者不明：プリンチング、リソグラフィ、発行年不明	3		3		"
239	" 陸運 原著者不明：インランド、コンペーイニス、発行年不明	3		3		"
240	" 歳時記 原著者不明：ケイ、ツ、ゼ、カレンダール、発行年不明	1		1		"
241	" 接物論 原著者不明：フラクチカル、モラルチ、スヘンシアル、ソシアル、エンド、ハプリック、チューチス、発行年不明	1		1		"
242	" 羊篇 原著者タイトル発行年不明	3		3		"
243	" 農学 原著者不明：アグリカルチュール、カルチュール、オフ、ウオスト、ランド、スヘート、ハズ、ハンドツ、発行年不明	3		3		"
244	理科会粹大森墟古物篇 Edward Sylvester Morse撰著：タイトル発行年不明	1		1		"
245	" 日本鑛山篇 クルト、コッター撰著：タイトル発行年不明	1		1		"
246	" 東京氣象篇 Mendenhall Thomas Corwin撰著：タイトル発行年不明	1		2		"
247	" 東京近傍地質篇 David Brauns撰著：タイトル発行年不明	1		1		"
248	" 日本釀酒篇 アキソソ撰著：タイトル発行年不明	1		1		"
249	" 概測常比地質篇 原著者タイトル発行年不明	1		1		"
250	新撰武術流祖録	1		1		武藝
251	士都華氏物理学 Balfour Stewart : <i>Lessons in elementary physics</i> . 発行年不明				5	物理
252	カトル氏生理養生論 Calvin Cutter : <i>A treatise on anatomy, physiology, and hygiene: designed for colleges, academies and families</i> . 1852				60	生理
253	新撰体操書	30		30		明治17年9月 体育
254	新制体操法	30		30		" "
255	新撰体操書	1		1		" "
256	新制体操法	1		1		" "
257	華氏解剖摘要圖 Henry Hartshorne : タイトル発行年不明	3		3		" 解剖
258	行政學教育篇 Lorenz von Stein : <i>Handbuch der Verwaltungslehre</i> . 発行年不明	1		1		" 政法
259	躰操教範	20	柔軟之部	20		" 体育
260	小學普通体操法	50		100		明治17年10月 "
261	新訂刑法義解	1		1		" 政法
262	治罪法釈義	1		3		明治17年11月 "
263	職業教育論 John Scott Russell : <i>Systematic technical education for the English people</i> . 発行年不明	3		3		" 教育
264	涅氏冶金學 Curt Netto : 東大ドイツ人教師ネット—の講義			3		" 鉱學
265	涅氏冶金學附圖 Curt Netto : 東大ドイツ人教師ネット—の講義	3		3		" "
266	解剖圖	1		1		明治17年12月 解剖
267	歩兵操典		生兵之部	10		" 武藝
268	歩兵操典		中隊之部	10		" "
269	地学用具解説	1		1		" 地學
270	倍因氏教育學 Alexander Bain : <i>Education as a science</i> . 1875	1	自四至六	3		明治18年1月 教育

271	教育辞林 シェミッド：シェミッドの本を参考にしたもの		自八至一 七	30		''	字書
272	新制躰操書	39		39		''	体育
273	新制躰操法	38		38		''	''
274	治療通論		中巻	1		''	医学
275	植物生育論 Samuel W. Johnson : <i>How crops feed</i> , 発行年不明	3		3		明治18年2月	博物
276	華氏解剖摘要圖 Henry Hartshorne : タイトル発行年不明	4		4		明治18年3月	解剖
277	躰操教範	5		5		''	体育
278	小學普通体操法	15		30		''	''
279	普通衛生學	1		2		''	衛生
280	佛氏国家生理學 Gustav Adolph Constantin Frantz : <i>Die Naturlehre des Staates als Grundlage aller Staatswissenschaft</i> , 発行年不明		第二編	1		''	政法
281	低洛爾氏萬國史 W.C. Taylor : <i>A manual of ancient and modern history</i> , 1867		巻三	1		''	史傳
282	人身生理學		巻一	1		''	生理
283	人体解剖圖		甲号	1軸		''	解剖
284	人体解剖圖解		甲号	1		''	''
285	歩兵操典		生先之部	7		''	武藝
286	歩兵操典		中隊之部	7		''	''
287	歩兵操典		大隊之部	30		''	''
288	佛国歩兵科上下士官実科教練	2		2		明治18年4月	''
289	軍人精神論 Charles Aime Alfred Blondel : タイトル発行年不明	3		6		''	''
290	村田銃取扱法	3		3		''	''
291	軍用村田銃薬包填●法	3		3		''	''
292	野外実演軌典第一版●●	3		3		''	''
293	野外演習軌典第一版歩兵	3		3		''	''
294	野外演習軌典第一版諸兵連合	3		3		''	''
295	歩兵射の演習実●	3		3		''	''
296	戸外遊戯法一名戸外運動法	1		1		''	体育
297	戸外遊戯法一名戸外運動法	30		30		明治18年5月	''
298	西洋戸外遊戯法	1		1		''	''
299	日本人種改良論	1		1		''	''
300	戎氏農業化學 Jas. F. W. Johnston, Sir Charles Alexander Cameron : <i>Elements of Agricultural Chemistry and Geology</i> , 発行年不明	1		2		''	化學
301	小學修年書		中等科ノ部 一ヨリ六マデ	6		''	修身
302	臨時築城教程第一版	3		3		''	武藝
303	射的教程第一版	3		3		''	''
304	陸軍給与概●第二版	3		6		''	''
305	改正小學美容術	1		2		明治18年6月	体育
306	室内銃射の演習規則	10		10		''	武藝
307	人体解剖圖		乙号	1		''	解剖
308	人体解剖圖解		乙号	1		''	''
309	商業特物法	1		2		明治18年7月	博物
310	扶氏藥劑學 Theodor Husemann : <i>Handbuch der gesammten Arzneimittellehre</i> , 発行年不明		3及4	2		''	薬剤
311	本朝六國史	2	一ア五帙	80		''	史傳
312	大日本史	2	一ア十四帙	252		''	''
313	籠頭音訳康瀬字典	2	一ア一帙	16		''	字書
314	増続大康益會玉編大全	4	一ア一帙	12		''	''
315	佩文韻府	2	一ア六帙	60		''	類書
316	紙塑人躰符號解説	1		1		''	解剖
317	緬氏古代法 Sir Henry Sumner Maine : <i>Ancient law</i> , 1874	1		1		明治18年9月	史傳
318	歩兵内務書第四版	1		1		''	武藝
319	器械躰操初歩演習	10		10		''	体育
320	躰操教範改正之部	5		35		''	''
321	路上測圖教方	1		1		明治18年12	武藝
322	迅速測圖教方	1		1		''	''
323	改訂兵學教程小戰術之部			2		''	''
324	兵學教程戰略之部	1	乾坤	2		''	''
325	地理圖學教授	1	卷ノ四欠	6		''	''
326	咪氏教育全論 Ira Mayhew : <i>Universal education</i> , 1867	1		1		''	教育
327	動物通解	1		2		''	博物

328	小學習画帖		自第一至第八	8		"	画學
329	人身生理書		二卷	1		"	生理
330	類聚法規		第七及第六篇	7		"	政法
331	商業工藝史 John Butler Yeats : <i>The Technical History of Commerce or skilled Labour applied to Production by John Yeats, 1871</i>	1		2		"	工學
332	商學沿革史 John Butler Yeats : <i>The growth and vicissitudes of commerce, 発行年不明</i>	1		2		"	史傳
333	蘭均氏瀛機學 William John Macquorn Rankine : <i>Manual of steam engine, 発行年不明</i>	1		3		"	物理
334	教育辞林 シェミッドの本を参考にした		自第十八至二十一	4		"	字書
335	陸軍諸兵科喇叭譜問●初●	1		1		明治19年1月	音楽
336	繙帯圖	1		1		明治19年2月	医学
337	繙帯要論圖譜共	1		2		"	"
338	軍陣外科手術 Friedrich von Esmarch : タイトル発行年不明		初篇二篇	2		"	"
339	弗氏生理書 Joseph Chrisman Hutchison : <i>A treatise on physiology and hygiene for educational institutions and general readers, 1872</i>	25		175		"	生理
340	陸軍病院扶卒須知	1		1		"	医学
341	三角繙帯用法	1		1		"	"
342	陸軍病院薬局方	1	第二版	1		"	薬剤
343	体操教範器械之部附圖共	3		6		明治19年3月	教育
344	普通体操隊列運動法	45	仮綴	45		"	体育
345	普通体操隊列運動法	3	●本	3		"	"
346	歩兵練法		一及二段	2		明治19年4月	武藝
347	射的教程第一版	10		10		"	"
348	彼日氏教授論 David Perkins Page : <i>Theory and practice of teaching, 1873</i>	2		2		"	教育
349	那然氏小學教育論 Charles Northend : <i>The teacher and the parent: a treatise upon common-school education, 1867</i>	2		2		"	"
350	學室要論 John S. Hart : <i>In the school-room. Chapters in the philosophy of education, 1872</i>	2		2		"	"